

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

平成 29 年度実施報告書

埼玉県立浦和高等学校

1 学校の現状と課題

本校では「尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。」という目指す学校像の実現を掲げ、生徒が学習、学校行事、部活動等に全力を傾注した高校生活を送っている。結果として、3年間で人間的に大きく成長を遂げ、生徒に第一志望はゆずらないとの堅い信念を持たせ、全職員が戦力を挙げて生徒一人ひとりの進路実現に取り組むことにより、多くの生徒が第一志望への進路実現を果たしている。一方、課題としては、高校入学段階で主体的に行動できる生徒が少なくなっている現状の中、自走（自立）を待つ指導ではなく、自走を促す指導を一層推進することが求められる。各年次において、「守・破・離」の理念を意識した指導の研究と実践が必要である。

2 本校における28年度までの取組及びその成果と課題についての概要

本校では、平成22年度～24年度の「進学指導重点推進校」、平成25年度～27年度の「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト」等の指定校として、能動的な学習活動を促す授業の研究・実践をとおして、「生徒の主体的な学習を促す授業改善」に取り組んできた。この実績を踏まえ、平成28年度から「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」指定校として、①これまで連携してきた大学、研究機関、海外姉妹校等との連携を強化・充実し、外部指導者、専門家を活用し課題研究・研究論文の質的向上をとおして、課題の設定、解決のできる能力を育成する取組、②能動的な学習活動を促す授業の研究・実践をとおして、「生徒の主体的な学習を促す授業改善」を推進し、生徒の思考力、判断力、表現力の育成、さらに「真の教養」（リベラルアーツ）の育成、に取り組むこととした。

また、平成26年度からは文部科学省によるスーパーグローバルハイスクール指定校として、「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるリーダーの育成」のため、新しい課題研究の深化、大学、研究機関、海外姉妹校との連携を推進し、「生徒の主体的な探求心」を養うとともに、学校外に積極的に飛び出していき、多様で異質な価値観を理解する柔軟性、協調性、共感力を育成している。

今後もこれまで本校が実施してきたリーダー育成を継続しつつ、どのように「第一志望はゆずらない」という目標を達成していくかを研究する必要がある。

3 本年度（29年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

① 進路講演会

ア 講義・講演等のねらい

毎年秋に「進路講演会」と題し、第一線でご活躍されている著名人を招いての講演会を開催し、隔年で文系理系分野の先生方にご講演をお願いしている。高校生という、

多様な可能性を秘め自我を確立していく時期に、一流の先生方の専門的な話、ものの捉え方、考え方、その人柄等に直接触れることは、生徒の進路に様々な示唆を与える。今年度は、11月24日（金）に東京大学工学部エネルギー・資源フロンティアセンターの加藤泰浩教授にご講演をいただいた。

イ 講義・講演等の概要

「研究する人生とは—浦高卒業生として私が目指すこと—」という演題で、これまでの経歴にもとづく研究者としての在り方や地球温暖化メカニズムやグローバル環境変動などの専門分野についての説明、レアメタル・レアアース資源の発見と今後の活用等について、語っていただいた。

ウ 生徒の様子

生徒たちは、OBである加藤先生の熱のこもった講演に感銘を受け、大いに刺激を受けている様子であった。加藤先生からの後輩たちへの叱咤激励は、十分に伝わったと思われる。講演後は生徒からの質問が絶えず、充実した質疑応答となった。

② 麗和セミナー

ア 講義・講演等のねらい

各分野の第一線で活躍する卒業生を招き、希望する在校生にじっくりと話をさせていただく機会である。毎年4～5回程度行われており、キャリアプランニングに大いに貢献しており、まさに生徒の「志」を育てる貴重な機会となっている。

イ 講義・講演等の概要

- 第1回（5月18日・木） 塩野胃腸科 医学博士 塩野 喜淑 氏
「夏とスポーツ医学—屋外スポーツのリスクマネジメント—」
- 第2回（6月19日・月） （株）常盤興産代表取締役社長 井上 直美 氏
「自分をどう活かしてゆくのか？自分は何者か？」
- 第3回（10月17日・月） （株）ヤオコー代表取締役会長 川野 幸夫 氏
「企業は人なり、私がこの道を選んだ理由」
- 第4回（1月10日・水） Medical Officer WHO 小野崎 郁史 氏
「日本の経験を世界へ—結核ゼロを目指して—」
- 第5回（2月6日・火） 筑波大学学長 永田 恭介 氏
「世界は今、そして大学は今」

ウ 生徒の様子

同じ学び舎で学んだ先輩の方々からの話から、参加した生徒達は非常に多くのものを学ぶことができたように感じられた。どの回も多くの生徒たちからの質問が寄せられ、それぞれの話題や講師の方たちからのメッセージに対する関心の高さが伺われた。

2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

ア 報告会等のねらい

各種事業に参加した生徒の振り返りを確実に行うとともに、他の生徒と情報を共有することで生徒の意識向上を図る。

イ 報告会等の概要

年次集会等において参加報告を行うとともに、学年通信や進路だより等にも掲載した。

ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

「講師の方から直接話を聞くことができ、ためになった。」「なかなか体験するがない貴重な体験をすることができたし、新しい視点を得ることができた。」など、肯定的な感想が多かった。今後、得られた知識や技能等を活用していくことが期待される。

3) 他県視察について

ア 報告会等の概要

本校とよく似た環境にある学校での取組について、職員会議において丁寧に報告がなされた。これを受けて、教科会や年次会でも情報交換を行い、広く情報が共有された。

イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

SGH事業や未来を拓く「学び」プロジェクト等と連携し、教職員全体に生徒の主体的な学習を促す授業改善に取り組んでいる。公開授業の検討会だけでなく、「書く力・考える力・伝える力」の育成にむけた校内研修も実施した。

4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導體制を構築する取組について

本校では平成12年度から取り組んできた「新世紀構想」による様々な模索を経て実践の定着と、平成22年度から平成24年度までの「進学指導重点推進校」の研究指定におけるそれぞれの取組の現状確認により、戦略的な進路指導體制の構築を図ってきた。そして、平成23年度に確認した「次の10年に向けて」の方向性（『「自走する集団づくり」とおして、「尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成」を目指し続ける。』）を実現すべく、改善を図るべく取り組んでいるところである。昨年度末に「新世紀構想」の役割分担を再度確認した。進路指導については、次のとおりである。

- ・職員間の認識の共有化「進路指導」の定義の確認
- ・職員間の情報共有・共通理解「進路指導研修会」（5月）の開催
- ・年次団による3年間を見通した指導の改善の取り組み
- ・教科による3年間を見通した指導の改善の取り組み

これまでの指導実績を踏まえ、進路指導に関する教職員研修等を実施するなどして、職員間の進路指導に対する共通理解を更に推進するように取り組んでいる。

5) その他

① 東大見学会

これから進学することになるであろう大学という環境や雰囲気を感じ、将来の進路選択の一助となっているとともに、研究の現場で今話題となっていることや高校の勉強が大学での研究にどのようにつながっていくのかなどを知る貴重な機会となっている。今年は、1・2年次生対象で9月20日（水）、1年次生のみ対象で11月14日（火）にそれぞれ実施された。

② 医師体験プログラム

医学部医学科への進学を固く志す生徒が、外科医の実際の仕事ぶりを体験することで、医師として必要な情熱と意欲をさらに高めることを目的として行われている。本校OBの天野篤先生のご協力により、夏季休業中の4日間に3名の生徒が参加して、順天堂大学医学部附属順天堂医院にて心臓血管外科医の実際を体験させていただき、自らの志をさらに強固なものにすることができた。

③ 世界を支える職業人講座

今年度より新たに、将来の自分の在り方について深く考える機会として、1年次生を対象に、10月16日（月）に、各界で活躍する本校OB9名から、それぞれの職業の魅力や変動する社会の中での立ち位置等について講演してもらった。生徒は、「自分の興味ある仕事に実際に就いている方からお話を伺えて、大変参考になった。」「浦高OBの人が、どのような高校生活を送って、現在の職業に至ったかを聴けて良かった。」などの感想を述べており、進路選択の参考になった。

④ OB講話

「第一志望はゆずらない」進路指導の一貫として、1年次生を対象に2月21日（水）に実施した。本校の卒業生4名を招き、現在大学で研究している内容やそのきっかけ、高校時代の過ごし方、大学受験に向けての心構え等について講演してもらった。生徒達はメモを取りながら、真剣に先輩の話に傾聴していた。2年次への進級を控えたこの時期での講演は、キャリアプランニングに大いに役立った。

⑤ 入試問題研究会

大学受験まであと1年となった、2年次の2月に、入試問題研究会を5回にわたって実施した。これは、現在志望している大学の入試問題を数人後グループで実際に解いてみるという内容で、現在の實力を知り、今後どういった勉強をしていったらよいかを考えさせるものである。「絶望するような難しさではなく、基礎や $+\alpha$ の力がついていれば戦えると感じた。」「意識の高い集団の中で非常に充実した時間を過ごすことができた。」「自分が持っているものをフル活用することが大切だと思った。守破離の破の意味をひしひしと感じた。」等の感想を述べている。

⑥ 文部科学省による「スーパーグローバルハイスクール」事業での主な事業

・SGH講演会（4月26日・水） 講師：IGS代表取締役福原正大氏

・SGHセミナー①（4月18日・火）

講師：カリフォルニア大学デービス校藤田齊之氏

②（3月14日・水）

講師：マンガ原作者&スポーツライター門脇正法氏

・海外フィールドワーク

（夏季休業中：各大学等へのサマーセミナー参加

学年末休業中：英国・デンマーク派遣及びベトナム研修）

・国内フィールドワーク（総合的な学習の時間でのアドバイザーグループ活動）

・中間報告会（文化祭中）及び総合報告会（2月17日・土）

4 参考資料

特になし